

# かぼちゃ・・・I

担当者 技能研究員 戸津政紀

試験課題名	品種系統選定試験
目的	本町に適した多収・高品質の品種を選定するため比較検討し普及に資する
期待される成果	優良品種の導入により、生産の安定と経済性の向上を図る。
連携機関	上川農業改良普及センター土別支所、JA北ひびき和寒基幹支所 和寒町蔬菜組合連合会南瓜部会

## 1 供試品種・資材

品種

※ えびす(タキイ) こふき(ナント) くりゆたか (みかど協和)  
九重栗EX(カネコ) 祝 盃(八江農芸) ほっとけ栗たん (渡辺採種)  
NX - MX937(渡辺農事) NX - MX935(渡辺農事)

※基準品種

マルチ資材

生分解性マルチフィルム(サンブラック工業株式会社)  
・サンバイオX

## 2 耕種概要

土 壤 ～ 灰色低地土(埴壤土)

前 作 ～ 越冬キャベツ

播 種 日 ～ 6月2日 定 植 日 ～ 6月14日 収 穫 日 ～ 9月13日

整枝方法 ～ 子蔓2本仕立て 5節目まで整枝・摘花

栽植密度 ～ 畦幅3.9m×株間0.75m 342株/10a 試験区面積 3.9m×3.75m 2反復

※ほっとけ栗たん 畦間3.9m×株間0.5m 512株/10a

## 3 土壌診断結果と施肥量

### (1) 土壌診断結果

(mg/100g)

pH	EC	P205	K20	MgO	CaO	熱水抽出N
5.79	0.071	48.8	31.6	69.6	502	9

### (2) 土改資材と堆肥 (kg/10a)

炭カル ～ 102kg 堆 肥 ～ 2,000kg

### (3) 施肥内容 (成分量%)

基 肥 ～ 硫酸アンモニア (21 - 0 - 0) 6月11日 マルチ幅 全層施肥

基 肥 ～ 粒状過燐酸石灰 (0 - 18 - 0) 6月11日 マルチ幅 全層施肥

基 肥 ～ 硫 酸 加 里 (0 - 0 - 50) 6月11日 マルチ幅 全層施肥

### (4) 肥料の要素量

(kg/10a)

		N	P	K
基 肥	硫酸アンモニア 23.8kg	4.99	-	-
基 肥	粒状過燐酸石灰 16.6kg	-	2.98	-
基 肥	硫 酸 加 里 10kg	-	-	5
合 計		4.99	2.98	5

## 4 調査項目

生 育 調 査 ～ 播種日・発芽期・発芽率・定植日・定植時の苗質・初期生育

雌花開花期・着果節位・着果期・収穫日・成熟日数・草勢・うどんこ病

果実特性調査 ～ 果形・果皮色・肉厚・果肉色

収 量 調 査 ～ 10a当たり収量・収量比・1株当たり平均個数・平均一果重・規格別割合

食 味 調 査 ～ 粉質程度・甘味・食味・乾物率

貯 蔵 調 査 ～ 糖度(Brix)・腐敗率

## 5 生育調査

項目		品種	えびす	こふき	くりゆたか	祝盃
播種日			6月2日			
発芽期			6月10日	6月10日	6月9日	6月9日
発芽率(%)			100	83	85	100
定植日			6月14日			
定植時の苗質	最大葉長(cm)		1.5	1.6	2.0	2.3
	葉数(枚)		0.0	0.3	0.3	0.6
初期生育 播種後45日	つる長(cm)		255.5	267.8	217.3	260.3
	葉数(枚)		17.0	16.2	15.5	18.3
	節数(数)		16.5	16.0	15.0	17.5
	草勢7/20		3	3	2	4
	草勢7/30		3	4	2	3
	うどんこ(無0~4堪)		3	3	4	4
開花始	雄花		7月17日	7月16日	7月15日	7月17日
	雌花		7月19日	7月28日	7月22日	7月19日
着果期			7月21日	7月30日	7月24日	7月21日
第一果 着果節位(節)			7.5	16.2	12.8	6.2
9月14日	つる長(cm)		882	972	681	711
収穫日			9月13日			
成熟日数			56	47	53	56

## 5-2 生育調査

項目		品種	NX-MX937	NX-MX935	九重栗EX	ほっとけ栗たん
播種日			6月2日			
発芽期			6月9日	6月9日	6月9日	6月9日
発芽率(%)			100	100	100	92
定植日			6月14日			
定植時の苗質	最大葉長(cm)		1.8	1.4	2.3	1.8
	葉数(枚)		0.1	0.0	0.4	0.0
初期生育 播種後45日	つる長(cm)		252.3	257.0	252.5	232.3
	葉数(枚)		16.0	15.8	15.8	14.5
	節数(数)		15.8	15.0	15.0	14.0
	草勢7/20		3	3	3	4
	草勢7/30		3	4	3	4
	うどんこ(無0~4堪)		2	2	2	2
開花始	雄花		7月17日	7月17日	7月15日	7月17日
	雌花		7月20日	7月20日	7月23日	7月19日
着果期			7月22日	7月22日	7月25日	7月21日
第一果 着果節位(節)			7	7	7.6	6.8
9月14日	つる長(cm)		860	868	783	625
収穫日			9月13日			
成熟日数			55	55	52	56

## 6 果実特性・収量調査

項目		品種	えびす	こふき	くりゆたか	祝盃
果形			扁平	豊円	扁平	腰高
果皮色			緑	緑	濃緑	緑
肉厚	赤道部(cm)		2.4	2.2	2.3	3.2
	花痕部(cm)		1.4	1.4	1.2	1.6
果肉色(濃5~1淡)			3	1	2	2
10a当たり収量(kg)			2,119	2,782	2,474	2,700
収量比(%)			100	131	116	127
1株当たり平均個数			2.7	2.7	2.9	2.9
平均一果重(kg)			2.2	3	2.4	2.7
規格別割合(%)	良果		67	60	80	59
	不良果		33	40	20	41

6-2

項目		品種	NX-MX937	NX-MX935	九重栗EX	ほっとけ栗たん
果 形			扁円	豊円	心臓	心臓
果 皮 色			濃緑	濃緑	黒緑	緑
肉 厚	赤道部(cm)		2.2	2.1	2.1	2.8
	花痕部(cm)		1.8	1.6	2.4	1.8
果肉色(濃5~1淡)			4	2	5	2
10a当たり収量(kg)			1,821	1,367	1,479	2,078
収 量 比 (%)			86	64	69	98
1株当たり平均個数			2.6	2	2.4	1.8
平 均 一 果 重 (kg)			2	2	1.8	2.1
規格別割合(%)	良 果		85	70	71	75
	不良果		15	30	29	25

## 7 食味・貯蔵調査

項目		品種	えびす	こふき	くりゆたか	祝盃
10月8日	粉 質 程 度 (強5~1弱)		3	2.8	2.2	1.5
	甘 味 (強5~1弱)		3	4.1	3.1	1.2
	食 味 (良5~0不良)		3	3.4	2.6	1.4
	乾物重(g)		25.5	26.9	24.6	-
	糖度(Brix)		13.5	14.4	10.7	13.3
11月1日	乾物率(%)		24.9	26.6	29	-
	糖度(Brix)		14.8	17.6	17.4	-
12月10日	粉 質 程 度 (強5~1弱)		3	2.8	4.0	1.9
	甘 味 (強5~1弱)		3	2.8	2.8	2.2
	食 味 (良5~1不良)		3	2.5	2.8	2.5
	腐敗率(%)		13.3	20	13.3	26.6
	糖度(Brix)		13.1	14.7	14.9	11.9
	乾物率(%)		28.5	23.8	31.1	-

7-2

項目		品種	NX-MX937	NX-MX935	九重栗EX	ほっとけ栗たん
10月8日	粉 質 程 度 (強5~1弱)		3	2.7	2.4	2.1
	甘 味 (強5~1弱)		3.5	3	3.4	2.5
	食 味 (良5~1不良)		3.2	2.7	2.8	2.1
	糖度(Brix)		13.4	12.7	14.3	13.9
12月10日	粉 質 程 度 (強5~1弱)		3.1	2.5	3.5	3.2
	甘 味 (強5~1弱)		2.8	3.2	2.4	2.8
	食 味 (良5~1不良)		2.9	3.3	2.9	3.4
	腐敗率(%)		0	0	33.3	26.6
	糖度(Brix)		15.1	14.9	17.1	17.4

## 8 防除歴

殺 虫 剤	殺 菌 剤
散布なし	7月26日 クラムス水和硫黄剤 500倍
	8月 4日 クラムス水和硫黄剤 500倍
	8月18日 ジーファイン水和剤 750倍

## 9 試験結果概要

### (1) 生育経過

78穴セル成型トレーにポットエースを使用して、6月2日に播種を行った。発芽はほぼ一斉となっており、9日から10日に発芽した。

今年は生育期間14日目に当たる日から、数日間の雨となる予報であったので定植を早めた。定植時の苗質は本葉0.5枚程であった。1区ごとは小面積で良い苗を選別できることもあり、老化苗で定植を行うよりは、悪影響が少ないと考え実行した。つる長に若干の個体差がでたが、初期成育は順調で、つるの伸長はこふきが旺盛だった。

今年の開花は、昨年よりやや早く、雌花の開花は祝盃・ほっとけ栗たんが19日と早かった。遅いものはこふきの28日であったが、花落ちした影響がある。

### (2) 果実特性・収量調査結果

1株当たり平均個数ではくりゆたか・祝盃が2.9個と最多となった。少ないものはほっとけ栗たんの1.8個となっている。平均一果重はこふきが3kgで最も大きく4.5kgを越えるものもあった。

総収量は基準品種のえびすが2,119kgとなった。それに対してこふきが2,782kg、祝盃が2,700kgとなった。良果割合はNX-MX937の85%、次いでくりゆたかの80%の順に高い結果となった。良果収量は、くりゆたか 1,979kg > こふき 1,669kg > 祝盃 1,593kg > ほっとけ栗たん 1,558kg > NX-MX937 1,547kg > えびす 1,419kg > 九重栗EX 1,050kg > NX-MX935、956kgの順になっている。

### (3) 食味・貯蔵試験結果

10月8日に1回目の食味試験を行った。粉質はえびすが3、甘さはこふきが4.1、食味もこふきが3.4と最も高い。2回目食味試験は12月10日に行った。全体的に例年より粘質傾向にあり、糖化の早いえびすなど、食味の低下が目立った。粉質ではくりゆたかが4.0と高く、甘さではNX-MX935が3.2となった。食味はほっとけ栗たんが3.4となっている。

貯蔵試験は風乾後農協倉庫で貯蔵した。11月24日に倉庫から取り出し、食味試験を行い、12月15日時点までの腐敗率を比較試験した。低いものはNX-MX935、NX-MX937が0%で、次にえびす、くりゆたかが13.3%となった。

昨年引き続き乾物率を測定したが、えびす・こふき・くりゆたかの3品種で、キュアリング後、11月上旬・12月上旬の3回の測定を行ったが、昨年よりも低い数値となっている。通常であれば糖化に伴い乾物率が減少していくと予想されるが、それに反して値が高くなっていた。

### (4) 考察

本年は非常に高温の年となり夜温も高く、その影響は各作物ともにでている。高温に加え、降水量も多く、草勢は強かった。7月下旬・8月中旬と雨が多かったことで、土が乾きにくい状態にあり、がんべやつる傷などが多く発生している。花落ちも発生しており、NX-MX935、九重栗EXでは他品種より着果数が少ない。こふきは強草勢によると思われる花落ちが多く、低節位で雌花が開花しないということがあった。くりゆたかは、初期生育調査時に着果を確認後、収穫前に再度確認した際、第一果節位が変わっていたため落果したと思われる。稀な現象ではあるがくりゆたかで、大玉に2次成長と思われるものがあった。しかし収量はよく、良果収量では最も多い。また、着果数は祝盃と並び2.9個と最も多い。しかし、くりゆたかはその年により収量の差が大きく、安定した生育に努めることが重要と考える。

# かぼちゃ・・・Ⅱ

担当者 技能研究員 戸津政紀

試験課題名	小玉南瓜品種特性比較栽培試験
目的	「坊ちゃん」と異なる果皮色を有する小玉品種の特性を調査する。
期待される成果	優良品種の導入により、生産の安定と経済性の向上を図る
連携機関	上川農業改良普及センター士別支所、 JA北ひびき和寒基幹支所 和寒町蔬菜組合連合会南瓜部会

## 1 供試品種・資材

品種

※ 坊ちゃん (みかど協和) 白い坊ちゃん (みかど協和) 赤い坊ちゃん (みかど協和)  
朱 姫 (ナント) ほっこり姫 (タキイ) プッチーニ (サカタ)  
平安小菊 (タキイ)

※ 基準品種

マルチ資材

生分解性マルチフィルム (サンブラック工業株式会社)

・MKV

## 2 耕種概要

土 壤 ～ 灰色低地土 (埴壤土)

前 作 ～ 越冬キャベツ

播 種 日 ～ 6月2日 定 植 日 ～ 6月14日 収 穫 日 ～ 9月10日

整 枝 方 法 ～ 子蔓2本仕立て 7節目まで整枝・摘花

栽 植 密 度 ～ 畦幅3.9m×株間0.6m 427株/10a当たり 試験区面積 3.9m×3m 2反復

## 3 土壌診断結果と施肥量

### (1) 土壌診断結果

(mg/100g)

pH	EC	P <sub>2</sub> O <sub>5</sub>	K <sub>2</sub> O	MgO	CaO	熱水抽出N
5.79	0.071	48.8	31.6	69.6	502	9

### (2) 土改資材と堆肥 (kg/10a)

炭カル ～ 102kg 堆 肥 ～ 2,000kg

### (3) 施肥内 (成分量/%)

基 肥 ～ 硫酸アンモニア (21 - 0 - 0) 6月11日 マルチ幅 全層施肥

基 肥 ～ 粒状過燐酸石灰 (0 - 18 - 0) 6月11日 マルチ幅 全層施肥

基 肥 ～ 硫 酸 加 里 (0 - 0 - 50) 6月11日 マルチ幅 全層施肥

### (4) 肥料の要素量

(kg/10a)

		N	P	K
基 肥	硫酸アンモニア 23.8kg	4.99	-	-
基 肥	粒状過燐酸石灰 16.6kg	-	2.98	-
基 肥	硫 酸 加 里 10kg	-	-	5
合 計		4.99	2.98	5

## 4 調査項目

生 育 調 査 ～ 播種日・発芽期・発芽率・定植日・雌花開花期・着果期

収穫日・成熟日数・草勢・うどんこ病

果実特性調査 ～ 果形・果皮色

収 量 調 査 ～ 10a当たり収量・収量比・1株当たり平均個数・平均一果重・規格別割合

## 5 生育調査

項目	品種	坊ちゃん	白い坊ちゃん	赤い坊ちゃん	朱姫	ほっこり姫	プッチーニ	平安小菊
播種日		6月2日						
発芽期		6月9日	6月9日	6月9日	6月9日	6月9日	6月9日	6月9日
発芽率(%)		100	92	100	100	95	100	100
定植日		6月14日						
定植時の苗質	最大葉長(cm)	3.1	1.3	1.9	1.4	2.4	1.8	2.3
	葉数(枚)	1.0	0.0	0.2	0.0	0.4	0.0	0.6
初期生育 播種後45日	つる長	105.7	87.9	98.9	69.4	134.4	115.0	156.6
	葉数(枚)	13.0	11.3	10.5	8.8	12.0	12.5	12.3
	節数(数)	10.4	10.0	9.3	7.5	10.2	11.0	11.3
	草勢7/16	3	3	2	1	4	4	2
	草勢7/30	3	3	3	2	4	3	3
	うどんこ(無0/4株)	1	1	1	1	1	1	1
9月8日	つる長(cm)	715	371	477	487	695	508	452
雌花開花期	雄花	7月15日	7月15日	7月15日	7月20日	7月17日	7月20日	7月26日
	雌花	7月20日	7月20日	7月20日	7月22日	7月21日	7月30日	7月23日
	着果節位(節)	8.75	9.1	7.75	8.0	8.0	10.5	9.75
	着果期	7月22日	7月22日	7月22日	7月26日	7月23日	8月1日	7月25日
	収穫日	9月10日						
	成熟日数	42	42	42	40	41	32	39

## 6 果実特性・収量調査

項目	品種	坊ちゃん	白い坊ちゃん	赤い坊ちゃん	朱姫	ほっこり姫	プッチーニ	平安小菊
果形		扁円	扁平	豊円	豊円	扁平	甲高	小菊
果皮色		黒緑	白	赤	赤	緑	黄	緑
肉厚	赤道部(cm)	1.8	1.4	1.3	1.3	1.8	1.2	1.9
	花痕部(cm)	1.1	1.2	1.4	1.3	1.3	1	1
果肉色(濃5~1淡)		3	2	4	4	3	1	3
10a当たり収量(kg)		1,370	1,157	982	597	1,729	1,088	1,430
収量比(%)		100	84	71	43	126	79	104
1株当たり平均個数		5	8.1	7.9	3.5	6.6	8.3	3.1
平均一果重(g)		642	334	291	400	610	307	1080

## 8 防除歴

	殺虫剤	殺菌剤
散布なし		7月26日 クラムス水和硫黄剤 500倍
		8月4日 クラムス水和硫黄剤 500倍
		8月18日 ジーファイン水和剤 750倍

## 9 生育経過と考察

播種6月2日、定植6月14日。品種比較と同様に育苗期間は12日間となっている。定植時苗質は、基準品種の坊ちゃんが葉長3.1cm、葉数1枚。小さいものは白い坊ちゃんの葉長1.3cm、葉数0枚。

初期生育に問題はなかったが品種により草勢の差が大きい。つる長は坊ちゃんが715cmで最も長く、短いものは白い坊ちゃんの371cmとなっている。隣のマルチまでの間をつるが覆いきらなかつたので、畦間を狭めることが可能である。

雌花の開花はプッチーニが7月30日と遅かったが、着果数では最も多い結果となった。約2~5個ほど鈴生りに着果するものもあった。収量では、ほっこり姫 1,729kg>平安小菊 1,430kg>坊ちゃん 1,370kg>白い坊ちゃん 1,157kg>プッチーニ 1,088kg>赤い坊ちゃん 982kg>朱姫 597kgの順となった。赤い坊ちゃん・白い坊ちゃん・朱姫・プッチーニは比較的小玉であったが、坊ちゃん・平安小菊・ほっこり姫は大きかった。特に平安小菊では最大で1,400~1,500gのものもあった。



# かぼちゃ・・・Ⅲ

担当者 技能研究員 戸津政紀

試験課題名	減肥栽培試験
目的	化成肥料・農薬使用の削減による環境保全型農業の普及に資する
期待される成果	減肥技術の導入により、生産の安定と経済性の向上を図る。
連携機関	上川農業改良普及センター士別支所、 JA北ひびき和寒基幹支所 和寒町蔬菜組合連合会南瓜部会

## 1 供試品種・資材

品種

※えびす(タキイ) くりゆたか(みかど協和)

※基準品種

マルチ資材

生分解性マルチフィルム(サンブラック工業株式会社)

・MKV

## 2 耕種概要

土 壤 ～ 灰色低地土(埴壤土)

前 作 ～ 越冬キャベツ

播 種 日 ～ 6月2日 定 植 日 ～ 6月14日 収 穫 日 ～ 9月13日

整 枝 方 法 ～ 子蔓2本仕立て 5節目まで整枝・摘花

栽 植 密 度 ～ 畦幅3.9m×株間0.75m 342株/10a当たり 試験区面積 3.9m×3.75m 2反復

## 3 土壌診断結果と施肥量

### (1) 土壌診断結果

(mg/100g)

pH	EC	P205	K20	Mg0	Ca0	熱水抽出N
5.79	0.071	48.8	31.6	69.6	502	9

### (2) 土改資材と堆肥 (kg/10a)

炭カル ～ 102kg 堆 肥 ～ 2,000kg

### (3) 施肥内(成分量/%)

基 肥 ～ 硫酸アンモニア (21 - 0 - 0) 6月11日 マルチ幅 全層施肥

基 肥 ～ 粒状過磷酸石灰 (0 - 18 - 0) 6月11日 マルチ幅 全層施肥

基 肥 ～ 硫酸加里 (0 - 0 - 50) 6月11日 マルチ幅 全層施肥

基 肥 ～ 発酵鶏糞 (3 - 2.8 - 0) 6月11日 マルチ幅 全層施肥

### (4) 肥料の要素量

化成窒素6.5kg+有機窒素1.5kg 計N8kg/10a区	N8	P3	K5	(Kg/10a)
化成窒素5kg/10a区	N5	P3	K5	
化成窒素3.5kg/10a区	N3.5	P3	K5	
無 施 肥	—	—	—	

## 4 調査項目

生 育 調 査 ～ 播種日・発芽期・発芽率・定植日・雌花開花期・着果期

収穫日・成熟日数・草勢・うどんこ病

果実特性調査 ～ 果形・果皮色

収 量 調 査 ～ 10a当たり収量・収量比・1株当たり平均個数・平均一果重・規格別割合

## 5 生育調査

(kg/10a)

項目	品種	化成N6.5+有機N1.5		化成N5		化成N3.5		無施肥	
		えびす	くりゆたか	えびす	くりゆたか	えびす	くりゆたか	えびす	くりゆたか
播種日		6月2日							
発芽期		6月10日	6月9日	6月10日	6月9日	6月10日	6月9日	6月10日	6月9日
発芽率(%)		100	85	100	85	100	85	100	85
定植日		6月14日							
定植時の苗質	最大葉長(cm)	1.5	2.0	1.5	2.0	1.5	2.0	1.5	2.0
	葉数(枚)	0.0	0.3	0.0	0.3	0.0	0.3	0.0	0.3
初期生育 播種後45日	つる長	211.3	136.5	192.0	154.5	184.5	129.0	148.8	103.3
	葉数(枚)	14.3	11.8	13.5	11.3	13.0	10.5	11.5	10.0
	節数(数)	13.3	10.2	12.5	10.3	12.3	9.5	10.5	9.3
	草勢7/16	3	2	3	2	3	2	3	2
	区別草勢7/16	3		3		3		2	
	うどんこ(無0~4株)	1	1	1	1	1	1	1	1
9月14日	つる長(cm)	818	583	744	605	772	755	826	545
雌花開花期	雄花	7月16日	7月16日	7月16日	7月16日	7月16日	7月16日	7月16日	7月16日
	雌花	7月18日	7月21日	7月20日	7月21日	7月20日	7月21日	7月22日	7月22日
着果節位(節)		6.6	8.2	8.5	6.8	8	7	7	6.4
着果期		7月20日	7月23日	7月22日	7月23日	7月22日	7月23日	7月24日	7月24日
収穫日		9月13日							
成熟日数		57	54	55	54	55	54	53	53

## 6 果実特性・収量調査

項目	品種	化成N6.5+有機N1.5		化成N5		化成N3.5		無施肥	
		えびす	くりゆたか	えびす	くりゆたか	えびす	くりゆたか	えびす	くりゆたか
果形		扁平	扁平	扁平	扁平	扁平	扁平	扁平	扁平
果皮色		濃緑	濃緑	濃緑	濃緑	濃緑	濃緑	濃緑	濃緑
10a当たり収量(kg)		2,505	1,914	2,307	2,228	2,201	1,855	2,310	1,866
収量比(%)		100	100	92	116	87	96	92	97
1株当たり平均個数		3.3	2.7	2.7	2.9	2.9	2.4	2.5	2.1
平均一果重(kg)		2.2	2	2.5	2.2	2.2	2.2	2.7	2.6
規格別割合(%)	良果	49	67	60	49	80	80	63	72
	不良果	51	37	40	51	20	20	36	28

## 8 防除歴

殺虫剤		殺菌剤	
散布なし		7月26日	クラムス水和硫黄剤 500倍
		8月4日	クラムス水和硫黄剤 500倍
		8月18日	ジーファイン水和剤 750倍

## 9 生育経過と考察

昨年同様に、品種比較試験と同じ苗を使用し、圃場での施肥量を変えて試験を行った。施肥は硫酸N6.5kg+有機窒素N1.5kg(発酵鶏糞使用)合計N8kg/10a区、硫酸N5kg区、硫酸N3.5kg区、無施肥区の4区で行った。

生育の調査結果では、各区で施肥量が少なくなるごにつる長が短くなっていた。収量調査ではおおむねつる長と同じ傾向があったが、N8kg区でくりゆたかの収量がN5kg区よりも劣る結果がでている。またN3.5kg区より無施肥区のほうが若干上回る結果が出た。昨年のキャベツの肥料試験の後なので、その影響がでた可能性がある。収量比は品種ごとにN8kg区を基準として計算を行っている。

各区で規格別割合に大きく差がでている。一部日焼け果があったが、主につる傷が原因となっている。今年は傷・ガンベが多く、草勢の差から傷のつきやすさに多少の差がでたのではないかと、思うが無施肥区ではガンベが目立った。N8kg区えびす・N5kg区くりゆたかの良果割合が49%と低くなった。

本年は定植を早めたことや、高温・多雨による強草勢など天候により左右された点が多く、次年度も試験を重ね比較し、結果を見る必要がある。

# かぼちゃ・・・IV

担当者 技能研究員 戸津政紀

試験課題名	北海道ブランド品種系統選定試験
目的	本町に適した多収・高品質の品種を選定するため比較検討し普及に資する
期待される成果	優良品種の導入により、生産の安定と経済性の向上を図る。
連携機関	上川農業改良普及センター士別支所、 JA北ひびき和寒基幹支所 和寒町蔬菜組合連合会南瓜部会

## 1 供試品種・資材

品種

※えびす(タキイ) くりゆたか7(みかど協和) 満 盃(八江農芸)  
No. 571(タキイ) くりこし三号(渡辺採種場) ダークホース(渡辺採種場)  
虹ロマン2(日本農林) くりほまれ(サカタ) 黒海南瓜(神田育種)

※基準品種

マルチ資材

生分解性マルチフィルム(サンブラック工業株式会社)  
・サンバイオX

## 2 耕種概要

土 壌 ～ 灰色低地土(埴壤土)

前 作 ～ 越冬キャベツ

播 種 日 ～ 6月2日 定 植 日 ～ 6月14日 収 穫 日 ～ 9月13日

整枝方法 ～ 子蔓2本仕立て

栽植密度 ～ 畦幅3.9m×株間0.75m 342株/10a当たり 試験区面積 3.75m×3.9m 2反復

## 3 土壌診断結果と施肥量

### (1) 土壌診断結果

(mg/100g)

pH	EC	P205	K20	Mg0	Ca0	熱水抽出N
5.79	0.071	48.8	31.6	69.6	502	9

### (2) 土改資材と堆肥 (kg/10a)

炭カル ～ 102kg 堆 肥 ～ 2,000kg

### (3) 施肥内容 (成分量/%)

基 肥 ～ 硫酸アンモニア (21 - 0 - 0) 6月11日 マルチ幅 全層施肥

基 肥 ～ 粒状過燐酸石灰 (0 - 18 - 0) 6月11日 マルチ幅 全層施肥

基 肥 ～ 硫酸加里 (0 - 0 - 50) 6月11日 マルチ幅 全層施肥

### (4) 肥料の要素量

(kg/10a)

			N	P	K
基 肥	硫酸アンモニア	23.8kg	4.99	-	-
基 肥	粒状過燐酸石灰	16.6kg	-	2.98	-
基 肥	硫 酸 加 里	10kg	-	-	5
合 計			4.99	2.98	5

## 4 調査項目

生 育 調 査 ～ 播種日・発芽期・発芽率・定植日・定植時の苗質・初期生育

雌花開花期・着果節位・着果期・収穫日・成熟日数・草勢・うどんこ病

果実特性調査 ～ 果形・果皮色・肉厚・果肉色

収 量 調 査 ～ 10a当たり収量・収量比・1株当たり平均個数・平均一果重・規格別割合

食 味 調 査 ～ 粉質程度・甘味・食味・乾物率

貯 蔵 調 査 ～ 糖度(Brix)・腐敗率

### 5 生育調査

項目	品種	えびす	くりほまれ	黒海南瓜	くりゆたか7	満盃
播種日		6月2日				
発芽期		6月10日	6月9日	6月9日	6月9日	6月10日
発芽率(%)		100	100	100	96	95
定植日		6月14日				
定植時の苗質	最大葉長(cm)	1.5	1.6	1.9	2.2	2.1
	葉数(枚)	0.0	0.0	0.1	0.3	0.2
初期生育 播種後45日	つる長	255.5	249.3	263.3	217.8	258.5
	葉数(枚)	17.0	16.0	17.8	16.5	17.8
	節数(数)	16.5	15.5	17.3	16.0	17.0
	草勢7/16	3	3	3	2	4
	草勢7/30	3	2	4	3	3
	うどんこ(0~4)	3	3	3	4	3
9月14日	つる長(cm)	882	1,022	928	800	851
雌花開花期	雄花	7月17日	7月19日	7月17日	7月19日	7月17日
	雌花	7月19日	7月20日	7月19日	7月21日	7月19日
着果節位(節)		9	7.3	13.9	6.8	6.5
着果期		7月21日	7月21日	7月21日	7月23日	7月21日
収穫日		9月13日				
成熟日数		56	55	56	54	56

### 5-2 生育調査

項目	品種	No. 571	虹ロマン2	くりこし三号	ダークホース
播種日		6月2日			
発芽期		6月9日	6月9日	6月9日	6月9日
発芽率(%)		95	100	100	100
定植日		6月14日			
定植時の苗質	最大葉長(cm)	1.5	2.3	2.3	1.8
	葉数(枚)	0.1	0.2	0.5	0.0
初期生育 播種後45日	つる長	270.5	276.3	246.0	260.5
	葉数(枚)	15.8	16.8	16.3	16.5
	節数(数)	15.3	16.3	15.8	16.0
	草勢7/16	3	3	3	3
	草勢7/30	3	2	3	3
	うどんこ(0~4)	2	2	2	2
9月14日	つる長(cm)	802	890	781	800
雌花開花期	雄花	7月17日	7月17日	7月15日	7月15日
	雌花	7月19日	7月21日	7月21日	7月18日
着果節位(節)		7.2	18.5	7.7	6.8
着果期		7月21日	7月23日	7月22日	7月20日
収穫日		9月13日			
成熟日数		56	54	54	57

### 6 果実特性・収量調査

項目	品種	えびす	くりほまれ	黒海南瓜	くりゆたか7	満盃
果形		扁平	豊円	扁平	扁平	扁平
果皮色		緑	濃緑	黒緑	濃緑	濃緑
肉厚	赤道部(cm)	2.4	2.4	2.2	2.5	2.2
	花痕部(cm)	1.4	2.2	1.5	2.1	1.9
果肉色(濃5~1淡)		3	3	3	5	3
10a当たり収量(kg)		2,119	2,406	2,112	1,951	2,249
収量比(%)		100	113	99	92	106
1株当たり平均個数		2.7	2.1	2.4	1.9	2.9
平均一果重(kg)		2.2	3.3	2.5	3	2.2
規格別割合(%)	良果	67	53	30	79	80
	不良果	33	47	70	21	20

## 6-2

項目		品種			
		No. 571	虹ロマン2	くりこし三号	ダークホース
果 形		豊円	扁円	扁円	心臓
果 皮 色		濃緑	濃緑	黒緑	黒緑
肉 厚	赤道部(cm)	2.1	2.5	2.1	2.8
	花痕部(cm)	1.9	1.6	1.1	2.2
果肉色(濃5~1淡)		4	3	3	4
10a当たり収量(kg)		1,613	1,958	1,486	1,609
収 量 比 (%)		76	92	70	75
1株当たり平均個数		2.5	2.8	2.5	3
平均一果重(kg)		1.8	2	1.7	1.5
規格別割合(%)	良 果	80	83	80	67
	不良果	20	17	20	33

## 7 食味・貯蔵調査

項目		品種					満盃
		えびす	くりほまれ	黒海南瓜	くりゆたか7		
10月8日	粉 質 程 度 (強5~1弱)	3	2.7	2.2	2.7	2.5	
	甘 味 (強5~1弱)	3	3.1	4.4	3.4	2.9	
	食 味 (良5~1不良)	3	2.8	2.5	2.9	2.6	
12月10日	粉 質 程 度 (強5~1弱)	3	2.5	2.2	4.1	3.3	
	甘 味 (強5~1弱)	3	3.2	2.9	2.9	3.0	
	食 味 (良5~1不良)	3	3.0	2.8	3.1	3.5	
	腐敗率(%)		13.3	13.3	6.2	6.6	26.6
	糖度(Brix)		13.1	15.5	15.2	14.9	16.6

## 7-2

項目		品種				
		No. 571	虹ロマン2	くりこし三号	ダークホース	
10月8日	粉 質 程 度 (強5~1弱)	3.3	2.1	2.8	2.3	
	甘 味 (強5~1弱)	3.3	3.7	2.9	3.5	
	食 味 (良5~1不良)	3.6	2.5	2.8	2.5	
12月10日	粉 質 程 度 (強5~1弱)	4.5	3.3	3.5	2.8	
	甘 味 (強5~1弱)	3.2	2.5	2.4	2.3	
	食 味 (良5~1不良)	3.5	2.7	2.8	2.4	
	腐敗率(%)		0	14.2	12.5	40
	糖度(Brix)		13.7	15.9	13.5	14.4

## 8 防除歴

殺 虫 剤	殺 菌 剤
散布なし	7月26日 クラムス水和硫黄剤 500倍
	8月4日 クラムス水和硫黄剤 500倍
	8月18日 ジーフライン水和剤 750倍

## 9 試験結果概要

### (1) 生育経過

78穴セル成型トレーにポットエースを使用して、6月2日に播種を行った。発芽はほぼ一斉となっており、9日から10日で発芽した。

定植時苗質は基準品種のえびすが葉長1.5cm、葉数0枚。それに対しくりこし三号が葉長2.3cm、葉数0.5枚となった。

初期生育に大きな差はなかったが、満盃はつるの伸長がやや旺盛であったが収穫前調査時には平均的な値となっていた。くりゆたか7が最も短い、葉数は同程度の数となっており短節間の特性が出たものと思う。雌花の開花はダークホースが最も早く18日となった。その他は、19～21日で開花を迎えた。

### (2) 果実特性・収量調査結果

1株当たりの平均着果数はダークホースが3個、満盃が2.9個、虹ロマン2が2.8個となった。平均一果重ではくりほまれが3.3kg、黒海南瓜が2.5kgとなっている。収量ではえびす2,119kgに対してくりほまれが最多であり2,406kgとなった。

次に満盃が2,249kgとなっている。良果割合は虹ロマン2が83%、満盃、No. 571、くりこし三号が80%と高かった。良果収量は、満盃 1,779kg>虹ロマン2 1,625kg>くりゆたか 7,1541kg>えびす 1,419kg>No. 571、1,290kg>くりほまれ1,275kg>くりこし三号1,188kg>ダークホース1,078kg>黒海南瓜633kgとなった。

### (3) 食味・貯蔵試験結果

貯蔵試験は風乾後、農協倉庫で貯蔵した。12月10日での腐敗率がNo. 571が0%、黒海南瓜が6.2%、くりゆたか7が6.6%となった。

10月8日に1回目の食味試験を行った結果、粉質はNo. 571が3.3、甘みは黒海南瓜が4.4、食味はNo. 571が3.6と評価された。12月8日に2回目の食味試験を行った。粉質程度では、No. 571が4.5と最も高く評価された。次にはくりゆたか7が4.1で甘味ではNo. 571とくりほまれが3.2。食味ではNo. 571と満盃が3.5となっている。No. 571は粉質程度において10月8日時点でも一番高い評価となっており、12月8日でも同様であることから、乾物率が高いことと糖化速度も遅い傾向があるのではと考える。

### (4) 考察

黒海南瓜と虹ロマン2の一部に、こぶし大まで肥大した果実の落果がみられた。高温と降雨の影響と思われる。その後着果し収量は並を維持している。突起・がんべが目立っていた。品種により差があり、黒海とダークホースは果実の全体にぼつぼつと小さながんべが多く、良果収量は大幅に下がってしまっている。今年天候の中で、総収量ではくりほまれが最多であったが、つる傷等が多く良果収量がとても低く、満盃が最多となる。しかし満盃は、10月8日の食味試験ではやや低い評価となっている。12月8日に行った2回目の食味試験では3項目とも3以上の評価だった。しかし食味ではNo. 571の粉質・甘味が高かったことで高く評価された。